

# お薬のしおり

No.162 (H27.8)

東京医科大学病院 薬剤部

## 胃・十二指腸潰瘍とピロリ除菌のお薬について

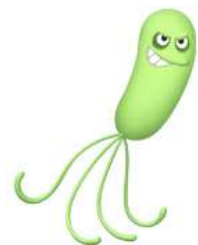
みなさんは、「ピロリ菌」という言葉を耳にしたことはありますか？  
ピロリ菌の正式な名前は「ヘリコバクター・ピロリ」(Helicobacter pylori)で、胃の出口(幽門=ピロリ)付近に住み着く、らせん状の細菌です。

胃の中には、食べ物の消化を助ける胃酸が分泌されているため、胃の中は強い酸性(pH1~2)で、通常の菌は生息できません。しかし、ピロリ菌はウレアーゼという特殊な酵素を持っており、アンモニア(アルカリ性)を発生して胃の中でも生きることができます。

日本人のピロリ菌感染者は約3500万人と言われており、特に50歳以上の方では約50%が感染していると報告されています。ピロリ菌に感染すると、胃に炎症を起こし、胃もたれや吐き気、空腹時の痛み、食後の腹痛や食欲不振などの症状が起こることがあります。これらの症状が続く場合、慢性胃炎や胃・十二指腸潰瘍などが疑われます。胃・十二指腸潰瘍の患者さんの約90%がピロリ菌に感染していることが分かっており、ピロリ菌がいる場合には約60%以上の方が1年後に胃・十二指腸潰瘍を再発してしまうことが報告されています。また、ピロリ菌の感染によって、胃・十二指腸潰瘍のみならず、胃がんや萎縮性胃炎、血小板減少性紫斑病、貧血、じんましんなどとの関連も考えられています。このピロリ菌をお薬によって「除菌」することで、胃・十二指腸潰瘍の再発率を低下することが認められています。そこで今回は、ピロリ菌除菌の治療薬についてご紹介します。

### <ピロリ菌の除菌療法>

内視鏡を用いた検査や尿素呼気試験法(吐き出した息を採取し、ピロリ菌がもつウレアーゼの働きで作られる二酸化炭素の量を調べる方法)などの検査によってヘリコバクター・ピロリが陽性と判定された場合、ピロリ菌の除菌治療が開始されます。2種類の抗生物質と胃酸を抑える



お薬の3種類を 1日2回（朝・夕）、7日間継続してのみます。

これにより、約70～80%の患者さんはピロリ菌を除菌することができます。1回目の除菌療法で除菌ができなかった場合には、さらにお薬を変えて再度除菌療法を行うことができます。除菌ができたかどうかは、除菌療法が終了してから4週間以上空けて検査をして判定されます。下記にピロリ除菌に用いるお薬を示します。

#### <ピロリ除菌1回目>

①ペニシリン系抗生物質（商品名：アモリン、サワシリン）

②マクロライド系抗生物質（商品名：クラリス）

⇒これらはヘリコバクター・ピロリを殺菌する効果があります。

③プロトンポンプ阻害剤

（商品名：タケプロン、パリエット、ネキシウム、タケキャブ等）

⇒胃酸を抑えることで、抗生物質が効きやすい状況を整えます。

#### <シート製剤>

最近では、上記3剤を1つのシートに組み込んだお薬も登場しています。

1つシートで1日分（朝・夕）のお薬がセットされています。

・ランサップ800：アモリン＋クラリス＋タケプロン

・ラベキュアパック400：サワシリン＋クラリス＋パリエット

#### <ピロリ除菌2回目>

1回目の除菌療法でピロリ菌を除菌できなかった場合には、②のお薬を別のタイプの抗生物質[メトロニダゾール（商品名：フラジール）]へ変更した3剤併用療法を行います。

#### <シート製剤>

・ランピオンパック：アモリン＋フラジール＋タケプロン

・ラベファインパック：サワシリン＋フラジール＋パリエット

ピロリ除菌療法のお薬の副作用としては、下痢を起したり便がゆるくなったりする、食べ物の味を苦く感じる等の味覚異常、腹痛、腹部膨満感などの症状が挙げられます。

お薬のことでご不安な点やご不明な点がある際、もしくは気になる症状を感じた場合には、自分の判断でお薬を減らしたり中止したりせずに、医師又は薬剤師までご相談ください。

